



1 地区の概況

- ◆相鉄線三ツ境駅から南に広がる商業地を含む住宅地域。駅周辺にはマンションが多く、65歳以上の単身高齢者も多い。
- ◆75歳以上の推定人口（平成29年度）で見ると今後も高齢化が進むと予測される。
- ◆人口8,904人、4,126世帯。自治会加入世帯数2,740。加入率66.4%（平成26年度）

2 第1期・第2期で取り組んだ主な活動や事業

- 第1期（平成18年～22年）**
- ◆防犯ステーションの設置・運営
 - ◆サロン「ほっと三ツ境」の立ち上げによる「たまり場」作り
 - ◆自治会の枠を超えたシニアクラブの運営による活動の活性化
 - ◆ふれあい昼食会「このは会」設立
 - ◆高齢者配食サービス「木曜の会」の実施
 - ◆子育て支援「ほんわかサロン」の運営

- 第2期（平成23年～27年）**
- ◆連合自治会・地区社協メンバーによる「住みよいまちづくり推進委員会」の設立
 - ◆「第2このは会」の設立
 - ◆第2サロン「ゆうゆうサロン富士見台」の設立
 - ◆「見守り・支えあいカード」「緊急カード」施策の実施及び「保管容器」の配布と安全・安心啓発
 - ◆高齢者所帯への防災グッズ「三ツ境ネットくん」の配布と見守り状況の実態把握
 - ◆自治会単位での「見守り・支えあいアンケート」の実施と情報の共有化
 - ◆それらを通じた情報ネットワークづくりへの挑戦

3 第3期計画に向けての課題

- ◆今後ますます進展すると思われる少子高齢化と人口減少。地域のみんで助け合い、支えあう習慣・文化が育たなければ「幸せに長生き」できないのではないか。
- ◆となり近所と顔見知りの関係を強めていくことにより“共助”の概念を広めていきたいが、各種行事を開催しても参加者の輪がなかなか広がらない。
- ◆自治会組織の中で高齢者や子ども、そして障がい者など弱者をどのように把握・理解して、情報共有化を図っていけばいいか。個人情報問題も解決しながら進めていきたい。
- ◆自治会役員・防災担当のみならず、広く一般住民に地域の安心・安全や弱者見守りの役割を果たして貰うにはどうしたらいいか、何が必要か。

4 推進母体

三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会
三ツ境地区が抱える様々な課題解決を目的として、連合自治会および地区社会福祉協議会・各種団体が協働する推進組織

5 第3期計画

究極の目標：**みんなで幸せに長生きをする**
～集い 寄り添い 住みよい三ツ境 まちづくり～



第45回地区レク表彰式

たくさんの方が地域行事や活動に積極参加する環境作り

お互いの顔が見える関係と柔らかで温かい連帯・絆を作る

- ◆高齢者の行事参加・外出を促す健康促進イベントの開催
- ◆諸団体の相互理解促進とそれを基にした共催強化
- ◆シニアクラブ活動の活性化
- ◆自治会への加入促進
- ◆自治会の枠を超えた行事の実施
- ◆地域サロンの活動内容の充実・強化と、活動拠点数の拡大
- ◆障がい者が参加できる行事の拡大と理解促進
- ◆地域の将来を担う子どもが参加したくなるイベントの実施
- ◆時代に即応した魅力ある地域名物イベントの立ち上げ（将来的課題）

- ◆顔見知りネットワークの拡大による“助けあい・寄り添いあい”の進化
- ◆「見守り・支えあいカード」「緊急カード」「保管容器」施策の充実 **継続**
- ◆「三ツ境ネットくん」の効果的運用 **継続**
- ◆地域の見守り人材の育成・制度化
- ◆自治会が果たすべき役割・規約の見直し

■まず、各自治会・団体でできること■

- ①それぞれの主催行事の魅力強化と広報活動の見直し
- ②自治会の役割・機能の見直しと人材育成を意識した仕組みづくり

